

## 「児童労働反対世界デー・キャンペーン 2007」を実施しました！



キャンペーンロゴ

6月12日は国際労働機関（ILO）が定めた「児童労働反対世界デー」。昨年に引き続き5月12日～6月30日の期間で「児童労働反対世界デー・キャンペーン 2007」を行いました。児童労働ネットワーク（以下、CL-Net）及びキャンペーン賛同団体が力を合わせて各地で様々なイベントを開催し、多くの方に児童労働に関して知ってもらう機会を作りました。メインイベント「映画&トーク」では、約500名の方が参加し会場は立ち見ができる程でした。キャンペーンの定着、そして多くの方が児童労働に関心を寄せているということを実感できた1ヶ月半となりました。

### 映画&トーク「児童労働、農業、貧困～今アフリカでは」

6月17日（日）に、ILO 駐日事務所、NGO - 労働組合国際協働フォーラム、CL-Net 共催で、キャンペーンのメインイベントである映画&トークを国連大学ピルのウ・タント国際会議場にて行いました。上映した映画は「エチオピア コーヒー生産国の悲劇」。エチオピアのコーヒー農家が経済の不公平によって貧困状態から脱出できない現状と、それに対し生産者である農家の人たちが協同組合を作り、フェアトレードによるコーヒー豆販売に取り組む様子を伝えるものでした。



トークディスカッションの様子

映画上映後には、エチオピアから来日した、アフリカ児童政策フォーラム理事長アセファ・ベケレ氏と、北海道大学大学院教授石弘之氏の基調講演、及びトークディスカッションを行いました。

ベケレ氏は、アフリカ諸国での児童労働を解決するためには、親の雇用の促進、HIV/AIDSの予防と治療、貧困層のニーズの充足、国際援助の増大、貿易システムの改善などが重要であると述べました。ベケレ氏が最後に述べた「児童労働の原因は、貧困、戦争や紛争、HIV/AIDSの問題であり、これらは本当に深刻であり解決が難しい。しかし前進していくことは重要であり、我々は問題に打ち勝つ意思がある。」という言葉は、児童労働問題の解決には多くの困難があるが、だからといって絶望しているばかりではない、と勇気付けられるものでした。

石氏からは、アフリカの児童労働と子どもが抱えている問題の具体的な紹介がありました。エイズ孤児、子どもの商業的搾取、漁業、ダイヤモンド鉱山、子ども兵士などに関して写真を交えた説明があり、非常にわかりやすく聞くことができました。最後に石氏は「無関心は罪である」というアインシュタインの言葉を引用し、先進国で生活する私たちが、途上国や児童労働について常に感心を深めていくことの重要性を強調しました。

基調講演後のトークディスカッションでは、ベケレ氏から石氏へ「もしあなたが開発援助のお金を自由に使えるとした

ら、まず何に使いますか？」という質問がありました。石氏は、貧困層の人々が自分たちで食べていけるように手助けするマイクロクレジット（小額融資）事業を通じた支援に注目していると答えました。加えて、先進国の方が援助をする際に注意しなければならないこととして、貧しい国の人々にモノを与えるというような、一見善意と思ってしまう援助が、必ずしも良い影響を与えるとは限らず、逆に悪い影響を及ぼすこともあると述べました。さらに、援助をする際には、現地の人々の生活などをしっかり理解して行わなければならないということ、必要な援助とは、人々が自らの力で生産的になり自立できるよう手助けすることであると強調しました。参加者のアンケートには「援助の仕方をきちんと考えていくことが重要」というコメントが多数あり、先進国による途上国支援のあり方についても考えさせられる内容となりました。

なお、今回の2人のゲストの招へいには、日本航空よりご協賛をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

### 児童労働反対世界デー・ウォーク

映画&トーク終了後には、今年で3回目となる「児童労働反対世界デー・ウォーク」を実施しました。参加したのは約250人。「映画&トーク」で基調講演をしてくださったアセファ・ベケレ氏も参加しました。

ウォークは、国連大学隣のこどもの城前広場からスタートし、表参道、明治通りを通じて代々木公園まで。大行列を作ってみんなで行進しました。



約250人が参加しました

歩きながら、「ストップ児童労働」「世界の子どもに教育を」「なくそう！世界の児童労働」「みんなで守ろう。子どもの未来」という4つのフレーズを繰り返し呼びかけました。

ウォーク参加者は、キャンペーンロゴが入ったパネルを首から下げたり、「児童労働反対」のプラカードや児童労働の写真を高々と掲げて、道行く人にアピールしました。多くの人が集まる表参道では、通行する人たちが手を振って、応援の声を投げかけてくれました。たくさんの人に支えられ、大成功に終わることができました。

ウォークは今年で3年目。恒例のイベントとして定着し、認知されてきたことを実感することができました。



先頭には大きなバナーをもってアピール

#### 「エチオピア コーヒー生産国の悲劇」

（原題「Black Gold」 <http://www.blackgoldmovie.com/>）

世界のコーヒー豆の貿易額は年間800億ドルを超え、一次産品としては石油に次ぐ巨大な市場規模となっている。だが先進国の消費者が1杯のコーヒーに数ドルを支払っても、発展途上国の生産者はそのわずか1千分の1の利益しか得ていない。不公正な取引を断ち切ろうと立ち上がったアフリカのコーヒー生産国エチオピアの生産者組合の代表に密着し、世界4大コーヒー企業やその中間業者による利益搾取の実態を明らかにする。（番組紹介文より）（今回の上映会では、2007年1月16日にNHKBS1「世界のドキュメンタリー」にて放映された日本語版をNHKの許可を得て上映）

このキャンペーンは、CL-Net 会員団体及び賛同団体、そして国際機関である ILO 駐日事務所と連携を取りながら進めました。以下に各団体が行った活動について報告します。

## キャンペーンイベント in 大阪

東京でのメインイベントが開催される 1 週間前に、大阪では 2 日間に渡ってイベントが開催されました。イベントは、ACE、国際子ども権利センター、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの共催。サントリー労働組合からドリンクのご協賛をいただき、両イベントにて参加者に配布しました。ご協力に感謝いたします。

### 児童労働セミナー in 大阪

6 月 9 日(土)に「児童労働セミナー in 大阪」を開催しました。ACE からは「CSR とチョコレート産業における児童労働」、国際子ども権利センターからは「カンボジアの子どもたちの現状と活動」、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンからは「アジアの児童労働の現状と支援」とそれぞれの団体から各分野の報告をしました。

参加者 34 名は高校生から大学生、一般企業の方まで多岐にわたり、最後に行われたグループディスカッションでは多くの意見が交わされ、互いに大きな刺激を受けることができました。「時間が短く残念だった」、「もっとディスカッションを深めたかった」という声が多く、今後のイベント開催に対して期待を高めることができました。

### 児童労働を考える関西ウォーク 2007

6 月 10 日(日)には大阪市中央区において、「児童労働を考える関西ウォーク」を実施しました。当日は教会での準備を含め 25 名の参加がありました。主催団体の会員、あしなが育英会の学生さん、桃山学院高校の先生や生徒さん、一般高校生、学生、社会人などが集まってくれました。集合時には大雨でどうなることかと心配しましたが、徐々に小雨になり最後は晴れ間ものぞき何とか歩ききることができました。

歩きながら「ストップ、ストップ児童労働!」「子どもたちには教育を!」「世界中に 2 億人以上いる働かなければ生きていけない子どもたちについて考えてみませんか。」などと参加者が拡声器で道行く人に呼びかけ、その他の参加者も呼応しました。



御堂筋を歩いてアピールしました

御堂筋を封鎖して、手作りプラカードを掲げてのウォークはとても迫力があり、街行く皆さんの注目を集めることができました。

## 世界フェアトレード・デー2007

5 月 12 日は「世界フェアトレード・デー」。キャンペーンの初日でもあったこの日、丸ビル 7 階にてグローバル・ヴィレッジ/ピープル・ツリー主催で「世界フェアトレード・デー2007」が開催されました。会場のロビースペースではフェアトレード 5 団体がフェアトレード・マーケットを開催。客足が途絶えることなくにぎわっていました。

メインホールではフリー・ザ・チルドレン・ジャパン (FTCJ) の高校生によるフィリピン訪問の発表、ACE の岩附代表による世界の児童労働の現状についての発表がおこなわれました。フェアトレードは知っていたけれど児童労働の問題についてはよく理解していなかったという参加者に対し、児童労働問題を知ってもらう機会となりました。

フェアトレードに関するシンポジウムでは、インドのフェアトレードの生産者団体、TARA と RTU が発表を行いました。そこでは大人に仕事があることの重要性や、フェアトレードで活動資金を得ながら児童労働に従事する子どもたちの状況を変える活動をしている様子などが話され、参加者の中では熱心にメモを取る参加者の姿も見られました。

フェアトレードファッション・ショーも行われ、そこでは雑誌「VOGUE」とのコラボレーションアイテムなどが発表され、立ち見も出るほどでした。また、平和教育活動に熱



当日のステージの様子

心なシンガー・SAKURA さんのミニライブもあり大盛況となりました。このイベントに参加したのは、総勢 850 人。多くの方に、フェアトレードや児童労働を知ってもらえたと思います。

## アジアにおける IPEC 活動報告

児童労働反対世界デーである 6 月 12 日(火)に、ILO 駐日事務所が主催の「フィリピン、ネパール、インドでの IPEC 視察報告会」が行われました。IPEC (児童労働撤廃国際計画)とは 1992 年に開始された ILO の技術協力プログラムで、「最悪の形態の児童労働」に重点をおきながら、すべての児童労働の撤廃をめざして世界各国で実施されています。

はじめに、長谷川 ILO 駐日代表が、今年の世界デーのテーマである「世界の児童労働と農業」についてビデオ上映を含んだ発表を行いました。今後は国際農業機関 (FAO) などと連携し、国際および各国レベルで農業における児童労働撤廃へ向けた積極的な取り組みが開始されると報告をしました。

次に、NTT 労働組合が実施した、フィリピン児童労働撲滅スタディーツアーの現地視察報告、「ネパールとインドにおける児童労働」について取材を行った毎日新聞大阪本社社会部の石川記者からの報告がありました。児童労働の問題は、貧困、教育、雇用といったさまざまな問題に関連していること、国や地域によって発生する背景やその実態が多様で深刻であることが伺えた、内容盛りだくさんの報告会でした。

## 子どもが伝える児童労働 - 写真展

6 月 9 日(土)と 10 日(日)の 2 日間、高輪区民センターにて「働く子どもの『遺産と伝説』キャンペーン」(OLAL) 日本事務局が主催の写真展「子どもが写した、インドの働く子どもたち」が行われました。「日常生活で見えるもの・触れるものが、実は子どもの労働により生産されている」というテーマに沿って、働いていた、ストリートチルドレンだった子どもたちが撮影した写真約 30 点を解説つきで展示しました。

写されているのは、ほしぶどうや唐辛子、とうもろこしなどの食べ物、バラ、レンガなどの生産に携わる子どもたち。

雨天にもかかわらず、両日ともとぎれることなく、社会人・親子連れを中心とした約 70 名の来場がありました。



熱心に写真を見る来場者の方たち

## フットサルを通じて児童労働を考えよう！

6月3日(日)にJ-Foot 浦和美園にて、毎年恒例となっている第4回 ACE チャリティフットサル大会が開催されました。全部で32チーム、約300人が集結し、子どもからおとなまで、女性も男性も外国人も混ざって、白熱した試合が繰り広げられました。また、Jリーグ選手のサイン入りグッズのチャリティオークションも行われ、大変盛り上がりしました。

フェアトレードで作られたフットサルボールを使うことによって、楽しく児童労働について知ってもらい、そして子どもたちの支援に参加してもらうことが、この大会のねらい。試合の合間にはチーム対抗のクイズ大会を実施し、児童労働やフェアトレードについて考えてもらいました。

参加した人たちに、フットサルを通じて児童労働問題を知ってもらい、行動するきっかけを提供することができたと思います。

大会による収益金は、ACEの「チャイルド・フレンドリー基金」に積み立てられ、今年もインドの児童労働問題を改善するための「子どもにやさしい村」プロジェクトに活用されます。



試合では子どもが大活躍！

## 体験型ワークショップで学ぶ児童労働問題

キャンペーン中には、ワークショップで児童労働を考えるイベントも行われました。

### 「表現アートで学ぶ、働く子どもの権利」

6月8日に「表現アートで学ぶ、働く子どもの権利」と題し、ACEとアムネスティ・インターナショナルの共催でワークショップが開かれました。

表現アートとは、絵画やボディームーブメント、即興劇など、多様なアートを総称する言葉です。講師である子どもの権利活動家・森田明彦さんのリードのもと、参加者25人が、自分にとって大切なものを紙に書き出し、それらがなくなったときの事を絵で表現し、感情を共有しました。これを通じて、大切なものを奪われた状態で働かされている子どもたちについて考えました。アートの技法を使ったこのワークショップは、多くの人にとって新しい経験となりました。

### 「カンボジアの子どもたちが学ぶ子どもの権利の授業を体験してみよう！」



子どもの権利を学ぶワークショップ

キャンペーン最終日の6月30日(土)に、国際子ども権利センター主催のワークショップが JICA 地球ひろばで行われました。参加者にカンボジアで実際に子どもたちが学ぶ「子どもの権利」の授業を体験してもらい、児童労働や子どもの性的搾取を防ぐために子どもの権利を学ぶことがどのように有効か考えてもらいました。意見交換では、子どもの権利について肯定的に受け止めている人が多く、もっと知りたいという感想も多く聞かれました。カンボジアだけでなく日本にあてはめて考えた意見や感想もあり、子どもの権利が日本でも普及する糸口になったのではと感じています。

各イベントの報告は、キャンペーンサイトにも掲載しています。ぜひご覧ください！ <http://stopchildlabour.jp/>

## アフリカの児童労働を考える

メインイベントではアフリカの児童労働問題を取り上げましたが、他にもアフリカに関するイベントを行いました。

### 映画「ブラッド・ダイヤモンド」から考えるアフリカの紛争と国際市場

6月23日(土)にちよだプラットフォームスクウェアにて、社団法人アムネスティ・インターナショナル日本が主催で講演会を行いました。講演会ではフォトジャーナリストの亀山亮さんのスライドショー、海外投融資情報財団特別研究員の吉田敦さんの講演やパネルディスカッションを行い、参加した80人が一緒になって映画を元にアフリカの状況を学びました。

鉱物資源が一握りの国際資本に押えられ、現地の政府にはその利益がほとんど還元されていないこと、採掘の現場で働く人びとには、賃金すらまともに払われていないこと、日本のような先進国が資源を大量に消費するということが、資源をめぐる紛争がどのようにアフリカの人々へ影響していたのかを身近に考えることができました。

### 講演会「ジャーナリストが出会った子ども兵士たち～アミンが残した憎しみの連鎖～」

6月23日(土)に文京シビックホールにて、(特活)アフリカ日本協議会が主催で講演会を行いました。総勢38名が参加しての会になりました。

講演したのは、フリージャーナリストの下村靖樹さん。下村さんは、ルワンダ等4カ国の活動を中心として、アフリカに10年以上関わっています。現地での取材からの写真や映像を交えながら、子ども兵士の話やジャーナリストとしての経験談などを話されました。下村さんが講演の最後に言った「ウガンダを取材し始めて7年が経ち、子ども兵士たちが立ち直っていく姿を見てきて、そこから人間の可能性・本質を感じた」という言葉は大変印象に残りました。

## キャンペーンイベント一覧

日程	イベント名(会場)	主催	参加者
5/12(土)	世界フェアトレード・デー2007	グローバル・ヴィレッジ / ビブル・ツリー	850人
4/24(火) - 6/14(木)	ILO 児童労働写真パネル展 (JICA 地球ひろば及び UN ギャラリー)	ILO 駐日事務所	1,500人
5/31(木)	第17回 CL-Net 学習会 「児童労働と教育」	CL-Net、教育協力 NGO ネットワーク (JNNE)	70人
6/3(日)	第4回 ACE チャリティフットサル大会	(特活)ACE	320人
6/8(金)	ワークショップ「表現アートで学ぶ、働く子どもの権利」	(社)アムネスティ日本、(特活)ACE	25人
6/9(土) - 10(日)	第5回 OLAL 写真展「子どもが写した、インドの働く子どもたち」	働く子どもの遺産と伝説キャンペーン(OLAL)	70人
6/9(土)	児童労働セミナー ~ 児童労働セミナー in 大阪 ~	(特活)ACE、(特活)フリー・ザ・チルドレンジャパン、(特活)国際子ども権利センター	34人
6/10(日)	児童労働反対世界デー・ウォーク in 関西		30人
6/12(月)	児童労働反対世界デー・イベント 「フィリピン、ネパール、インドにおける IPEC 活動報告」	ILO 駐日事務所	80人
6/17(日)	映画&トーク「児童労働、農業、貧困 - 今アフリカでは」	ILO 駐日事務所、NGO - 労組国際協働フォーラム、CL-Net	500人
6/17(日)	児童労働反対世界デー・ウォーク	CL-Net	250人
6/23(土)	アフリカひろば vol.19 「ジャーナリストが出会った子ども兵士たち - アミンが残した憎しみの連鎖 -」	(特活)アフリカ日本協議会(AJF)	38人
6/23(土)	「ブラッド・ダイヤモンド」から考えるアフリカの紛争と国際市場	(社)アムネスティ日本	80人
6/30(土)	ワークショップ「カンボジアの子どもたちが学ぶ子どもの権利の授業を体験してみよう！」	(特活)国際子ども権利センター	37人

## キャンペーン全体を振り返って

キャンペーン 2 年目であった今年は、いくつかの新たな試みを行いました。

第一に、私たちの身の回りのものと児童労働が密接に繋がっているということ、今まで以上に訴えていったということです。フェアトレード、コーヒー、ダイヤモンドなどを題材にして、自分たちの生活が途上国の児童労働に関係している、ということのアピールしたことが、多くの方の関心を寄せることにつながったと思います。

第二の点としては、缶バッジを作成したということです。キャンペーンに賛同した人たちやイベントに参加した人たちに缶バッジを配布し、身に付けてもらい、児童労働反対の意思をアピールしてもらいました。キャンペーンロゴをそのままプリントした缶バッジは、かわいいので身に着けやすいと大変好評でした。

第三としては、キャンペーンウェブを開設したということです。キャンペーンのメインイベントやその他イベント情報を随時掲載し、常にイベント情報などを簡単に閲覧できるようにしました。

第四としては、ウェブサイト上に「あなたがいますぐ！ できること」というメニューを設けたことが挙げられます。これは、キャンペーン中のイベントに参加した人の中で「何か自分も児童労働問題解決に向けて行動を起こしたい！」と思った人に対して、キャンペーン参加団体の活動を紹介し、参加することによって行動へとつなげてもらうことを

ねらいとしました。昨年、イベントへ参加した方のアンケートに、行動の方法を教えてくださいという意見があったため企画しました。これにより、すぐに行動できる選択肢を提供できたことは一つの前進であったといえます。

しかし、アクションメニューを実施した団体に聞いたところ、活動への参加者が増加したと手ごたえを感じている団体と、参加者が増加したのかよくわからないと感じている団体とがありました。結果的に、行動する人が増えたかどうかを判断することができませんでした。人々の関心をどのように行動につなげていくのかは、引き続きの課題です。

もうひとつの課題としては、昨年に比べて、マスコミで取り上げられた数が少なかったことがあげられます。より多くの人に伝えていくためにも、もっと広報の対策を練っていく必要があります。

今年で実施 2 回目となったキャンペーン。キャンペーン期間中に実施したイベントには、約 3,800 人もの人々の参加がありました。これだけ多くの人に参加してもらえたのも、参加した団体が共通の目標に向かって協力・連携しあうネットワークならではの成果であると思います。CL-Net は児童労働のない社会の実現を目指して、これからも多くの団体と協力していきたいと思います。キャンペーンにご参加、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございます。



### 児童労働ネットワーク会員団体

(社)アムネスティ・インターナショナル日本  
(特活)ACE  
グローバル・ヴィレッジ  
(特活)国際子ども権利センター  
国際食品労連日本加盟労組連絡協議会(IUF-JCC)  
国際労働財団(JILAF)  
Save Children Network  
フェアトレード・リソースセンター  
(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

フード連合  
日本労働組合総連合会(連合)  
UI ゼンセン同盟

### キャンペーン賛同団体

アジアの女性と子どもネットワーク  
(特活)アフリカ日本協議会  
NTT労働組合

(特活)エファジャパン  
NPO 法人 かものはしプロジェクト  
教育協力NGOネットワーク(JNNE)  
(特活)グッドネーバースジャパン  
(社)シャンティ国際ボランティア会  
世界子ども通信ブラッサ  
(特活)ハンガーフリーワールド  
ヒューマンライツ・ナウ  
(特活)ラオスのこども  
(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン

## 児童労働ネットワーク (CL-Net) は会員を募集中です！！

会員になると、会員のメーリングリストや学習会、運営会（オブザーバー参加）に参加することができます。

### 会員になるには？

会費を郵便振替にてお振込みください。  
事務局からご連絡させていただきます。

郵便振替口座：00160-8-685281

口座名義：児童労働ネットワーク

会員の種別と会費（会費期限は毎年9月～8月）

正会員 (総会での議決権あり)	団体	一口 5000 円（一口以上）
	個人	一口 5000 円（一口以上）
協力会員 (総会での議決権なし)	団体	一口 1000 円（一口以上）
	個人	一口 1000 円（一口以上）

（振替用紙の通信欄には、必ず会員の種別と口数を記入してください）

この短信は児童労働ネットワークのイベントにご参加いただいたみなさま、またネットワークの会員団体とつながりのある皆様にお送りしています。送付先の変更や送付不用の場合は事務局までご連絡ください。

児童労働ネットワーク(CL-Net)事務局 〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F (特活)ACE 内  
TEL: 03-3835-7555 FAX: 03-3835-7601  
E-mail: info@cl-net.org URL: http://cl-net.org/